

あ い さ つ

東山梨教育協議会
会長 宮本 正明

東山梨教育協議会の研究の成果を収録した「東山梨教育研究」が、今回で第49号の発行となりました。この収録が、東山梨教育協議会創立以来、多くの先輩より引き継がれ、真摯に築き上げられてきた実践の成果であること、また、東山梨の子どもたちのよりよい成長のために教育三者が一体となって進めてきた組織研究の成果であることを思う時、その持つ意味の重さを感じずにはられません。

私たちは『平和を守り、真実を貫く民主教育の確立』のスローガンのもと、平和で民主的な社会を作るためには教育実践が大切であることを確認し、取り組んできました。こうした地道な努力によって、東山梨の32校の小中学校のすべての子どもたちが真剣に学習に取り組み、落ち着いた生活をしているという評価を得ています。子どもたちが一生懸命に物事に取り組む姿を見られるのは教師冥利に尽きます。

こうしたすばらしい教育実践ができているのもこの地域の保護者の皆様が、学校教育に深い信頼を寄せているからに他なりません。この家庭教育の支えがあったればこそ私たちの実践であると思います。こうした恵まれた教育風土の中で私たちの真面目で地道な努力が報われているのです。

しかしながら一部の家庭では親の身勝手な行動や子育ての放棄などにより、健全な心身の成長が妨げられている子どもたちも存在します。また一方的に学校を非難するクレームも見受けられるようになってきました。学校と家庭・地域が一体となって、子どもたちを健やかに成長させることが困難になりつつあります。

また学力の低下という理由から学習指導要領の改訂があり、授業時数が増加されたり、小学校への英語学習の必修化などにより、ますます学校現場は多忙化が進んでいます。ゆとり教育から詰め込み教育への回帰が危惧されます。

さらに教員免許状の更新制や教員評価や主幹教諭の配置などにより、教員一人一人が分断され、協力体制が崩れることが予想されます。

こうした状況だからこそ、ますます私たちは教育協議会に結集して、校長会、教頭会、教連が団結して、保護者、地域、行政と連携を深めながら、子どもたちの健全な育成のために協力して取り組まなければなりません。一人一人の力は弱いけれど、多くの仲間がいて、助け合って励まし合って子どもたちの教育に取り組んでいくことが大切だと思います。その意味からもこれからますます教育協議会の意義は大きなものになると思います。

結びに私たちの研究活動を物心両面にわたり支え、指導していただきました多くの方々から心からお礼を申し上げ、あいさつとさせていただきます。